

厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）
分担研究報告書

地域診断および保健活動評価モデルとツールの開発に関する研究

研究分担者	佐伯 和子	北海道大学大学院保健科学研究院	教授
	大森 純子	東北大学大学院医学系研究科	教授
	永田 智子	東京大学大学院医学系研究科	准教授
研究協力者	嶋津 多恵子	国立看護大学校	教授
	川崎 千恵	国立保健医療科学院	主任研究官
	小西 美香子	横浜市総務局	課長
	佐川 きよみ	葛飾区健康部	係長
	須藤 裕子	小鹿野町保健福祉センター	主査
	遠藤 直子	聖路加国際大学大学院看護学研究科	博士後期課程
	江川 優子	聖路加国際大学大学院看護学研究科	博士後期課程

研究要旨：本分担研究は、「地域における保健師の保健活動に関する指針」の実用化を進めるために、「地域特性に応じた保健活動推進ガイドライン」の実践的方法論の開発と並行して、保健活動の実践で活用できるツールの作成を目的としている。本年度は、地域診断についての文献検討および情報収集を行い、その結果を踏まえ、保健活動で活用できるツールについて検討し、地区カルテ（仮称）、地域診断ツール、評価ツールを開発段階まで進めることができた。今後は、活用方法も含め、具体的なモデルやツールを開発するとともに、モデル自治体における試行と評価を行っていく。

A. 研究目的

本研究は、「地域における保健師の保健活動に関する指針」を実用化するための「地域特性に応じた保健活動推進ガイドラインの開発」の第二段階として、保健活動で活用できるツールの作成を行うことを目的として実施された。

B. 研究方法

1. 地域診断についての文献検討および専門家・研究者からの情報収集：

今まで公表されている地域診断に関する文献について、検索データベースにて検索するとともに、公表されている書籍および報告書等を収集し、地域診断の定義や方法、診断項目について検討した。また、地域診断および評価に関するツールを

可能な限り収集し、保健活動の実践で活用でき、開発可能なツールについて検討した。

さらに、地域診断および評価に関する専門家および研究者が集まる国内外の学会（The 4th International Global Network of Public Health Nursing Conference, American Public Health Association 2016 Annual Meeting & Expo, 第5回日本公衆衛生看護学会学術集会）に出席し、公衆衛生あるいは公衆衛生看護の専門家、研究者から、地域診断と地域活動についての情報収集・意見交換を行った。

2. ツールの作成についての検討：

これまで推奨されてきている地域診断のツールの特徴と課題について整理した。その結果を踏まえ、保健活動で活用できるツールの作成につい

て、自治体の保健師（実践者）へのヒアリングを行いながら検討した。

C. 研究結果

1. 地域診断についての文献検討

これまで公表されている地域診断に関する文献・資料は27件（資料1）あった。これらの文献や調査研究で蓄積された地域診断の方法は、地理・環境、交通、産業・経済、保健統計などについての情報を収集し、多角的かつ網羅的に地域を診る方法がほとんどであり、保健計画等の策定時など、特別な時に実施するものであった。実際に、保健師が日常的な実践で用いることは困難で、実用的ではないことが明らかになった。

また、提示されてきたツールも、網羅的な地域診断ツールであり、実際の保健活動ではそのまま使用することが難しいことが明らかになった。

2. ツールの作成についての検討

文献検討および情報収集の結果を踏まえ、保健師が地域特性に応じた保健活動の実践で活用できる、有用なツールについて検討した結果、3つのツールを開発段階まで進めることができた。

《地区カルテ（仮称）》

保健師が日頃の活動で個から見えたもの、そのほか地区活動を通して得られた経験データは、十分活用されていない。したがって、経験データも含む、地区概要として地形・交通機関、主な保健統計（人口、出生率、高齢者割合、生活保護率等）、産業・文化・教育・生活、関係機関・住民組織とキーパーソン、地区特性（特徴・強み・弱み）およびビジョン（将来像）に関する情報を蓄積し、地域の健康課題、抽出した課題に対する地区活動の目標、計画、評価などの活動のサマリーを記載することができる、地区カルテ（仮称）を作成するものとした。地区カルテ（仮称）は、地区担当者から地区担当者へと、経年的に引き継がれることを想定しており、地区カルテ（仮称）を活用す

ることにより、これまで個々の保健師が蓄積していた、地域のデータと地区活動についての情報を共有し、より効果的な「地域特性に応じた保健活動」を展開することができる。

《地域診断ツール》

実践では、保健師は個との関わりや、その他の地区活動において、健康問題に関わる「気づき」を得て、そこから地域診断を始める場合が多い。しかし、そのような思考プロセスに合ったツールは提示されていない。したがって、地区活動における「気づき」から地域診断に向かう思考プロセスの標準化モデルを作成するとともに、「気づき」から始まる焦点化地域診断のツールを作成するものとした。地域診断ツールを活用することにより、標準化された「気づき」から始まる地域診断のプロセスに沿って、気づきを得られた時に、どのデータを用いて、どのように分析していけばよいかについても、具体的に考えることができる。

《評価ツール》

地区カルテ（仮称）や地域診断ツールを用いて、明らかにした地域の健康課題と、課題解決のために行った地区活動の評価が難しく、実践における課題である。したがって、地区活動の評価指標と評価範囲を示した、評価ツールを作成するものとした。評価ツールを活用することにより、地区活動の評価を適切に行い、PDCAサイクルに基づいた、より効果的な「地域特性に応じた保健活動」を展開することができる。また、事業評価等についても実践方法論として評価モデルをガイドラインに盛り込むこととした。

D. 考察

本年度は、地域特性に応じた保健活動推進ガイドラインの開発のための、保健活動で活用できるツールの開発段階まで進めた。来年度は、地区カ

ルテと地域診断ツールや評価ツールと連動した 3 つのツールを完成させ、一体化するかどうかを含めて検討し、保健師へのヒアリング後、モデル自治体における試行と評価を行っていく予定である。また実践方法論としての評価モデルの検討を継続していく。

E. 結論

本研究では今年度、「地域特性に応じた保健活動推進ガイドラインの開発」の実践的方法論の開発と並行して、保健活動の実践で活用できる 3 つのツールを、開発段階まで進めることができた。

F. 健康危機情報

総括研究報告書による

G. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他

引用文献 なし

謝辞

本分担研究に、資料提供、ご助言いただいた日本公衆衛生学会公衆衛生看護のあり方検討会の皆様、並びにアドバイザーボードの皆様にお礼申し上げます。

資料 1

地域診断・コミュニティアセスメント文献・書籍			
1	平野かよこ編	地域特性に応じた保健活動：地域診断から活動計画・評価への協働した取り組み	ライフサイエンスセンター 2004
2	水嶋春朝	地域診断のすすめ方：根拠に基づく生活習慣病対策と評価(第2版)	医学書院 2006
3	エリザベス T アンダーソン、ジュディス マクファーレン(編) 金川克子、早川和生(監訳)	コミュニティアズパートナー：地域看護学の理論と実際	医学書院 2007
4	佐伯和子	地域看護アセスメントガイド	医歯薬出版 2007
5	広井良典	コミュニティを問いなおす：つながり・都市・日本社会の未来	筑摩書房 2009
6	中板育美(分担事業者)	平成22年度地域保健総合推進事業「地域診断から始まる見える保健活動実践推進事業」報告書	ウェブ 2011
7	山崎亮	コミュニティデザイン：人がつながるしくみをつくる	学芸出版者 2011
8	金川克子、田高悦子(編)	地域看護診断(第2版)	東京大学出版会 2011
9	近江環人地域再生学座、鶴飼修(編)	地域診断法：鳥の目、虫の目、科学の目	新評論 2012
10	保健師ジャーナル	地域診断から始まる見える保健師活動	医学書院 2013 (2月号)
11	寛裕介	ソーシャルデザイン実践ガイド：地域の課題を解決する7つのステップ	英治出版 2013
12	保健師ジャーナル	地域診断のチカラをつける：基礎教育から現任教育へ	医学書院 2015 (4月号)
その他資料			
13	和泉京子他(分担) 津村智恵子・上野昌江(編)	第3部第2章 D 地域看護活動論(地域診断・活動展開) 公衆衛生看護学	中央法規 2012
14	標美奈子(分担) 標美奈子(著者代表)	6章A 公衆衛生看護活動の展開における地域診断 標準保健師講座・1 公衆衛生看護学概論(第4版)	医学書院 2015
15	櫻井しのぶ(分担) 荒賀直子・後閑容子(編)	第2章1-1 地域診断 公衆衛生看護学.jp(第4版)	インターメディカル 2015
16	和泉比佐子(分担) 佐伯和子(編)	第2章地域アセスメント 公衆衛生看護学テキスト第2巻 公衆衛生看護技術	医歯薬出版 2014
17	麻原きよみ(分担) 鳩野洋子、島田美喜(編)	地域診断(地区診断) C. 活動のサイクル(p38-39) 公衆衛生実践キーワード：地域保健活動の今がわかる 明日がみえる	医学書院 2014
18	平山朝子(分担) 宮崎美砂子・北山三津子 他(編)	第2章 II-3 受け持ち地区の診断 最新 公衆衛生看護学 第2版 2015年版 総論	日本看護協会出版会 2015
19	大森純子(分担) 星旦二・麻原きよみ(編)	第IV章 1-3) 地域診断(コミュニティ・アセスメント) これからの保健医療福祉行政論 第2版 地域づくりを推進する保健師活動	日本看護協会出版会 2014
20	大森純子(分担) 星旦二・麻原きよみ(編)	第III章 2. 保健医療福祉の地域づくりを推進する保健師活動の方法 2-1) 社会医療福祉の課題(顕在的・潜在的)を明らかにする 2-2) 健康課題の解決・改善とコミュニティの力量形成 2-3) 社会資源の公平な利用と分配 これからの保健医療福祉行政論 第2版 地域づくりを推進する保健師活動	日本看護協会出版会 2008
21	大森純子(分担) 神馬征峰・大森純子・宮本有紀(編)	第2章 公衆衛生の活動対象 A. 自分の生活と健康に関係する社会集団 B. 看護職の公的責任と活動対象 C. 社会集団を捉える視座 D. 社会集団のなかにある特定集団 系統看護学講座(専門基礎) 公衆衛生 健康支援と社会保障制度②	医学書院 2014
22	大森純子(分担) 在宅ケア学会(編)	第4章 在宅ケアの展開方法 I. 対象の発掘発見期 II. サービスや社会資源の開発構築期 在宅ケア学 第1巻 在宅ケア学の基本的考え方	ワールドプランニング 2015
23	大森純子、小林真朝、小野若菜子、麻原きよみ	コミュニティアセスメントの実践的演習の成果	聖路加看護大学 紀要, 40(1), 105-111, 2014. 2014
24	斉藤恵美子(分担) 平野かよ子(編)	第1章 地域診断 最新保健学講座5 公衆衛生看護管理論	メヂカルフレンド社 2011
25	Kyoko Yoshioka-Maeda, Sachiyo Murashima., & Kiyomi Asahara	Tacit knowledge of public health nurse in identifying community health problems and need for new services: A case study	Nursing Studies, 43, 819-826 2006
26	三菱総合研究所	平成26年地域づくりによる介護予防を推進するための手引き	厚生労働省老人保健事業推進等補助金 2015
27	Marjorie A. Muecke	地域看護活動の方法：概念の明確化からアセスメント・施策化へ(Readings in Community Health Nursing)	医学書院 1998